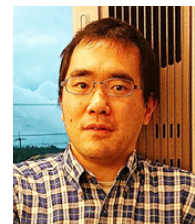


活躍する技術士

修習技術者支援委員会と私と

Engineer-in-Training Support Committee and me

飯田 雅弘
IIDA Masahiro

推薦人から一言：飯田氏は、電気電子部門及び上下水道部門の技術士としてご活躍されており、業務では主に輸出関連の業務に取り組まれている。修習技術者支援委員会での立場はWEB会議システム担当者である。新型コロナウイルス拡大によりオンラインによる研修会に切り替えた際、飯田氏のリーダーシップを発揮した行動によりオンライン研修会開催を実現することができた。「活躍する技術士」としてふさわしい方と考え、推薦いたします。（統括本部修習技術者支援委員会 前委員長（現：統括本部研修委員会幹事） 阿部修一）

1 自分の業務について

私が勤務している東芝インフラシステムズ(株)電機サービスセンター（旧：東芝電機サービス(株)）は、上下水道設備、空港、道路、鉄道システムなど重要な社会インフラ設備や、さまざまなビル・工場を支える受変電システム・監視制御システムの安定運用のために、試験調整、保守点検、予防保全、改修業務、運転維持管理などのサービスを提供しています。

私はスタッフ部門として輸出管理・公的資格管理・安全管理を担当しております。現場で働く方々が快適に作業できるよう、裏方として業務に取り組んでいます。事務系として採用されたこともあり、現場経験が不足しているため、過去トラブル事例や社内業務マニュアル等を熟読することで、少しでも現場の知識を身に付けるべく、日々奮闘中です。現場の方から「現場出てないのによく知っているねえ～」といわれると、努力が報われた気がしてうれしくなります。



写真1 第二次試験合格者研修会にて
（上下水道部会のポスターは本人が作成）

2 技術士取得の動機について

会社に入る前までは、電気や上下水道とは一切無縁でした。入社後、最前線で活躍している同期の話を知っているうちに、自分も現場に行きたいと思うようになりました。しかし、私は文系出身の事務系として採用されたこともあり、技術部門への異動は厳しい状況でした。そこで、自分を変えるべく、電験三種や下水道技術検定三種等、会社業務に関連する資格を取得する中で、「技術士」の存在を知りました。電験三種に合格したことで、設計部門に異動となり、技術士第二次試験に必要な実務経験を積めるようになったことから、技術士取得を目標としました。

受験生だった頃は、技術士の本質を全く理解せず、過去問を解くことばかりにこだわっていました。その結果二次試験に3度失敗してしまい、悩んでいた頃に、とある技術士から修習技術者支援委員会（以下修習委員会）を紹介いただきました。修習委員会が主催する、修習技術者研修会への参加を通じて、技術士の本質を学ぶ良い機会となりました。特に、初めて研修会に参加した時に某委員から、「君の考え方では、一生技術士にはなれない」といわれたことが、その後の二次試験に対する取り組み方の戒めとなりました。

2018年に電気電子部門に合格してからは、自分と同じ悩みを抱えている方の手助けをしたいと思い、修習委員会の委員として活動しています。

プロフィール

飯田 雅弘 (いいた まさひろ)
技術士（電気電子／上下水道部門）

東芝インフラシステムズ（株）
電機サービスセンター 技術統括部
e-mail : ezorisu@basil.ocn.ne.jp

学協会活動

- 日本技術士会 上下水道部会 事務局

資格

- 第二種電気主任技術者
- 電気通信主任技術者（伝送交換）
- 公害防止管理者（水質関係第1種）
- 大型二種運転免許
- クレーン・デリック運転士 他多数

現在の業務

- 輸出管理業務及び公的資格管理業務

経歴

- 2002年 日本大学 生産工学部 管理工学科※ 卒業
（※現マネジメント工学科）
東芝電機サービス（株）入社 本社 総務部に配属
- 2005年 府中事業所 設計部門へ異動
- 2014年 本社 技術統括部へ異動
- 2017年 東芝インフラシステムズ（株）に社名変更
- 2018年 技術士（電気電子部門）合格
- 2023年 技術士（上下水道部門）合格

趣味

- 旅行（国内メイン）、鉄道（乗り鉄メイン）、資格取得

一方で、受験生と同じ目線も必要であるとの考えから、2部門目に挑戦し、2023年に念願の上下水道部門に合格することができました。

3 趣味について

趣味は旅行です。物心ついた頃から鉄道好きでした。最初は乗り鉄をしていましたが、乗り換えの待ち時間に温泉に入ったり、地元の名物を食したりするうちに、徐々に旅行の方にシフトしていきました。コロナ禍前は年3~4回ほど、鉄道を利用して、日本全国を旅行していました。

技術士全国大会は趣味と実益を兼ねているので、技術士になってからは欠かさず参加するようにしています。前回の第48回技術士全国大会（関西・奈良）では、コロナ禍が終息に向かっているということもあり、徐々に宿泊旅行に行くことができました。今年の第49回大会は中部・愛知、来年は北海道、再来年は九州と遠方が続くので、全国大会参加に合わせて、宿泊旅行を計画中です。

4 日本技術士会における活動について

二次試験合格後に参加した研修会で、某委員（先程の方）に声を掛けていただいた縁で、修習委員会委員として活動する機会を得ました。委員会名が示す通り、技術士を目指す修習技術者のコンピテンシーの獲得・向上を支援するため、二次試験がある7月を除き研修会を毎月開催しています。

2019年11月の委員就任後、半年もしないう

ちに、新型コロナウイルスの影響で研修会が全面中止となりました。何とかして研修会を再開させたいとの思いから、当時流行りだしていたオンラインの有効性に着目しました。まずは6月より定例会をオンラインで再開し、委員の皆様と協力して、オンラインでの研修会再開に向けた体制構築と準備を進めました。そして半年後の8月よりオンラインにて、会場で実施していた頃と同じ構成（講演⇒グループディスカッション⇒グループ毎の発表⇒質疑応答）で、かつ、双方向の研修会を再開することができました。オンライン開催にあたって、いろいろと苦労はありましたが、今となっては良い経験ができたと思っています。

オンライン開催の波及効果は、地方参加者が増えたことです。会場開催の時は、参加者は首都圏に限られていました。オンライン開催となった今では、参加者の半数以上が一都六県以外を占めています。修習委員会として、今後も会場とオンラインのハイブリッド開催を継続することで、今まで支援が十分でなかった、地方の修習技術者のサポートを充実していきたいと考えています。



写真2 修習技術者研修会にて（後段左端が本人）